

# 研究公正の推進のために必要な取り組みとは？

研究者、行政、社会の取り組み

菱山豊（徳島大学）、松澤孝明（文科省）、浅井文和（ジャーナリスト）

田中智之（京都薬科大学）、中村征樹（大阪大学）

オンライン：6/23（木）15:00-16:30

1. 研究公正の取り組みの現状とその限界：話題提供・浅井、中村
2. 今後どのように研究公正を進めるのか：話題提供・田中
3. JST-RISTEXプロジェクトのご紹介：田中、中村

# 研究公正の推進をどう進めるか？

## 研究者

研究倫理教育：座学、研修、研究室内

## 研究機関

研究室の運営：PI教育、ハラスメント対応

## 学会

学会の役割：専門的領域のガイドライン作成

研究公正の専門家の育成

## 行政

ガイドラインの整備

不正調査の監視

複数の研究機関をまたぐケースの取り扱い

研究公正に関する知見の集約・蓄積

## メディア

研究不正が与えるインパクトを伝える

不正の背景についての報道

# 誰が研究公正を推進するのか？

研究倫理の啓発・教育  
研究倫理の相談員（助言機能）

疑義の調査や評価には関わらない

オンブズパーソン（独ほか）：高名な研究者、主に不正の予防  
研究公正アドバイザー（豪）

不正疑義の調査  
研究倫理の啓発・教育

適切な手続きで不正調査を進める

研究公正官(RIO)（米）：法的な問題に関する知識ももつ

- ・ 最初は手探り？ 専門性がある業務→キャリアパスがある方が良い
- ・ 専門家をどのように育成していくか？
- ・ 業務の重要性・意義を共有するには？

## 研究公正の専門家の育成

科学社会学、研究倫理、科学技術社会論  
ELSI/RRI、科学コミュニケーション

## 監視・調整・裁定機関

研究公正局(ORI, NIH)、監察総監部(OIG, NSF)  
スウェーデン、フランスでも設置の動き







## ライフサイエンスにおける誠実さの概念を 共有するための指針の構築

田中 智之（京都薬科大学）／加納圭（滋賀大学）  
／標葉隆馬（大阪大学）／小出隆規（早稲田大学）

# 信頼できる研究者／危ない研究者

研究者の多くは同じ領域の研究の質を（内面的に）評価している

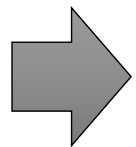
## 信頼できる研究者

結果に再現性がある  
容易に結論めいたことを言わない  
議論の中で生データを要求する  
ひとつの結論を得るために複数の実験をする



## 危ない研究者

研究に一貫性・整合性がない  
生データを出すことを渋る  
ひとつの実験結果でたくさんのアピールをする



研究者の「誠実さ」を見分けるポイントがあるはず…

# プロジェクトの内容と期待する効果

田中智之（京都薬大） 加納圭（滋賀大学）  
標葉隆馬（大阪大学） 小出隆規（早稲田大学）

ライフサイエンス研究者へのインタビュー調査



半構造化インタビュー  
フォーカス・グループ

大規模質問紙調査  
(Webアンケート)



生物科学学会連合  
(会員：32学会、のべ90,000人)



クロス集計  
回答パターン分類  
共分散構造解析など

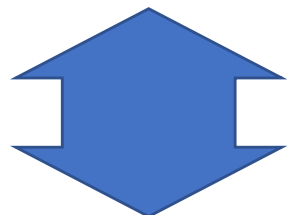
ガイドラインの作成・提案



競争的研究費の審査  
人事選考  
研究室セミナーなど

ガイドラインの普及活動

学会シンポジウム  
SNSの活用  
ワークショップの開催



行政との連携  
「誠実な」研究像の共有  
人的ネットワーク・人材育成



質の高い研究  
より適切な研究評価  
研究不正の抑制